

第1回北区岩淵周辺地区かわまちづくり計画協議会 議事要旨	
開催日時	令和6年5月25日(土)10時00分～12時00分
開催場所	荒川下流河川事務所1階 アモアホール
出席者	<p>《委員》</p> <p>【学識経験者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・荒巻 俊也 委員 (東洋大学 副学長/国際教育センター長 国際学部教授)</li> <li>・二井 昭佳 委員 (国土舘大学 理工学部教授)</li> </ul> <p>【地域関係団体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石渡 良憲 委員 (岩淵町まちづくり協議会代表)</li> <li>・酒井 克昌 委員 (志茂まちづくり協議会代表)</li> <li>・土井 富美子 委員 (北区水辺の会会員)</li> <li>・織戸 龍也 委員 (株式会社岩淵家守舎代表取締役)</li> <li>・中林 徹 氏 (一般社団法人東京北区観光協会事務局次長)</li> </ul> <p>【北区関係職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吉田 直人 委員 (北区 政策経営部 シティブランディング戦略課長 地域振興部 産業振興課 副参事 観光振興担当)</li> <li>・長久保 英邦 委員 (北区 防災まちづくり担当部 防災まちづくり担当課長)</li> <li>・荒井 和也 委員 (北区 土木部 道路公園課長)</li> </ul> <p>《オブザーバー》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・渡辺 健一 氏 (国土交通省 関東地方整備局 荒川下流河川事務所 副所長)</li> <li>・山崎 明日香 氏 (国土交通省 関東地方整備局 荒川下流河川事務所 流域治水課長)</li> <li>・平田 智子 氏 (国土交通省 関東地方整備局 荒川下流河川事務所 地域連携課専門官)</li> <li>・加賀屋 博文 氏 (東京都 建設局 河川部 低地対策専門課長)</li> </ul> <p>《事務局》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北区 まちづくり部 まちづくり推進課</li> </ul>
開催形態	公開
次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 委嘱状交付</li> <li>3. 区長・副区長挨拶</li> <li>4. 委員紹介</li> <li>5. 会長・副会長の選出</li> <li>6. 議事 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 北区岩淵周辺地区かわまちづくり計画の策定について</li> <li>(2) 北区岩淵周辺地区かわまちづくり計画の対象エリアについて (まちあるき)</li> </ul> </li> <li>7. 次回の日程について</li> <li>8. 閉会</li> </ol>
議事要旨	<p><u>会長・副会長の選出</u></p> <p>○会長は荒巻俊也委員、副会長は二井昭佳委員が選出された。</p>

**議事：(1) 北区岩淵周辺地区かわまちづくり計画の策定について**

○事務局より資料の説明。

**【質疑応答】**

- (会長) 資料の中で荒川将来像計画の地区別計画の説明があったが、令和6年に改定予定となっている。11ページの内容が改定されるのか。
- (事務局) 資料でお示ししているのは改定前のものである。
- (会長) 改定によって、方向性は変わるのか。
- (委員) 荒川将来像計画という荒川全体の計画を基に河川管理者と意見交換しながら、地区別計画の素案の作成を行っているが、まだお示しできる状況ではない。
- (副会長) 地区別計画はこのかわまちづくりの議論を反映いただけるのか、切り離して進めるのか。
- (委員) おおもとに荒川将来像計画があり、かわまちづくりに向けた取り組みも想定しているので、イベントなど、その考え方の中で整理すべきことが出てくると思う。「水辺の会」の活動など既存の活動などは今後も入れていくので、それがくみ取れるような計画になると思う。
- (副会長) 協議会で出てきた意見を踏まえ、よく見たら違うなということはないようにしていただけたらと思う。
- (委員) 資料の中で水上アクティビティの様子(10ページ)と出ているが、昔この辺一带で貸しボート屋があり、かなりにぎわっていた。今後可能であれば、貸しボート等を導入することで人は呼べるのではないか。荒川の流れがどうかはわからないが、千鳥ヶ淵のようなイメージで家族連れにも来てもらえると思う。
- (委員) 緑地の管理は指定管理制度を入れている。実際バーベキュー場などを運営している中で、スポット的なイベントで水上アクティビティやSUP(スタンドアップパドルボート)等をやっている。貸しボートで係留するとなると、様々な制限や出水の際どうするかなどを含めて検討する必要がある。例えば、船を陸に揚げて保管する場所があればやりやすいと思う。可能性がどこまであるかは意見をもらった中で考えてみたい。
- (副会長) 対岸の川口側の荒川を活かしたかわまちの動きがあれば教えてほしい。
- (事務局) 事務局が把握している限りでは、川口でかわまちの動きはない。
- (委員) 昔は川口と岩淵で綱引きをやった記憶がある。兩岸で真ん中に舟を出して綱引きをやったりしていた。
- (委員) 40年か30年前だと思うが、私も荒川で川口と綱引きをやった記憶がある。とても盛り上がった。その写真が新聞に載ったので、うれしかった記憶がある。
- (委員) ネットでは、1988年にかっぱ祭りのときにやったというのが出ている。

- （委員）綱引きでは舟が何艘も出ていたし、定期的に行っていたと思う。ほかに今のグラウンドのところで仕掛け花火もやっていた。今はあまり聞かないが、それもきれいだったという印象はあった。イベントでやるのであれば、賑わいの一つかと思う。水上アクティビティはボートを出せるので、簡単にできる。
- （委員）私は「子どもの水辺」の維持管理をしている。昔ヨシを刈って舟を作り、荒川で浮かべた記憶がある。刈り取って舟を作るのは非常に大変だった。なぜヨシを刈りたいかという、前年にヨシを刈ると次の春に良いヨシになる。みんなでヨシを刈るということ、子どもの水辺からできたらと思う。また最近では E ボートというのがある。子どもの水辺から荒川まで E ボートを子供 10 人くらいで動かして行った記憶がある。それが川と親しむというところで人気があった。無理なのはわかっているが、そういったことができるとういかもしれない。
- （委員）「子どもの水辺」の活動記録に残っているかもしれないので、確認する。「子どもの水辺」は来年 20 周年を迎え、イベントができたらという話をいただいている。区の方でも何か支援ができないか考えていく必要がある。
- （委員）イベントの日が子供たちの土曜授業にあたらないようにし、全員が参加してにぎやかにできればよい。
- （委員）継続して子供たちがあそこにおいて、何かができるということはとてもいいことだと思う。

**議事：（2）北区岩淵周辺地区かわまちづくり計画の対象エリアについて（まちあるき）**

- 対象エリアの確認のため、まちあるきを実施した。

**【質疑応答】**

- （委員）赤水門が国の重要文化財に登録されるということで、注目を集める観光スポットとして、来ていただいたお客様がもう少し長くとどまってお金を使ってもらえるような方向で進めてほしい。
- （委員）アモアのボランティアをやっていると、アモアまで遠い、迷うという意見がある。利用者からは、高齢者にはきつく、どうにかならないのかという意見をもらう。来たいのに来られないのはもったいないと思う。K バスが通ればうれしい。浮間の方は K バスが通っており、8 人くらいしか乗っておらず採算性は難しいかもしれないが、こっちは 10 人くらい乗ってもらえるのではないか。
- （委員）アクセスのご意見があったが、赤羽ピクニックフェスタの時に赤羽駅からレンタサイクルの実証実験を行った。多くの方に赤羽駅からレンタサイクルをご利用いただいて、一定の成果があった。この場所は駅から遠いのが弱点である。赤羽ピクニックフェスタの際は赤羽駅の駅前広場に臨時ステーションを置いたが、設置場所は検討する必要がある。
- （委員）電動キックボードも街中で見るようになったが、移動手段としてありかもしれない。

- （委員）自転車を駅の方に設置して、自転車でこちらに来るのであれば、駐輪場は八雲神社を利用してもらえればよいと思う。
- （委員）八雲神社とアモアの前にサイクルラックは置いている。視察で見たように、荒川河川敷はサイクリストが多いのが特徴である。多くの人が通過するので、サイクリストに寄ってもらうためのハード・ソフト整備が、にぎわいづくりのきっかけになると思う。
- （委員）リバーステーションがあり、あそこで水上バスが利用できたら良いと思ったが可能か。定期的にやるなら北区ニュースで情報を発信すれば、集客も違ってくるかと思う。
- （委員）以前は定期便があったが、今は定期便がない状態である。赤水門も重要文化財に指定されたのでそういうところで PR して、船のルートに入れてもらえれば、海の方からもお客さんが来てくれ、さらに PR できると思う。
- （委員）そういうことができれば、キッチンカーの利用もできるかもしれない。
- （委員）海の方からお客さんが船できて、バーベキューや水門を見てもらうというのが観光として成り立てば、PR する一つの価値になると思う。
- （委員）先日の赤羽ピクニックフェスタの時は雨模様であったが、雨が少し上がった時に、子どもたちがアモアにすごくたくさん来た。その時アモアカフェでは水門ソーダとコーヒーの飲み物を出していたが、なんでこんなに子どもが来るかというくらい集まった。食べ物を出すイベントはこんなに人気があるのだと思った。アモアの3階に土日だけでもカフェのようなものがあると、アモアにも人が入るし、休憩場所になると思う。周辺には店がないので、アモアカフェは素晴らしい企画だと思った。
- （委員）この一帯は、欲しいと思っても簡単に購入できないというはある。
- （オブザーバー）ルールを決めれば、カフェもできないことはないと思う。
- （委員）赤水門の前にアモアがあるので、休憩スペースとしては最適で、水に関する知識をうけながら、アモアカフェで屋上の素晴らしい景色を見ながら食事ができればいいスポットになると思う。
- （委員）中の島などで飲食してもよいのか。
- （委員）購入したものを飲食することは問題ない。キッチンカーなど店を出さか出さないかは、制約があり、管理の中で協議や調整が必要となる。
- （委員）河川敷には水飲み場があるが、野球場のあたりにキッチンカーが出たらいいなという話は聞いている。それは可能なのか。
- （委員）指定管理者が管理しているところは、指定管理者と区との協議・調整が必要である。出店する方の出店意欲や収益がマッチングすれば、許可は出せる。河川敷の奥では自然地の活用をしているので、あまり多くのキッチンカーの台数になると難しいかもしれないが、今の活用を大事にしながら調整ができれば良い。
- （委員）地域の商店とのかかわりの話になるが、サイクリストの方々はかなり遠方から来る。うちで自転車屋とカフェを並列して置いているが、遠方からだ

と100km圏内だったらお客さんは来る。岩淵はサイクリストのメッカになっており、理由としては水門のところで土手上を走ってきて唯一日陰になると、バーベキュー場があってトイレがあるためである。そこからまちに降りるきっかけが今まではなく、私のところでは自転車をメンテナンスできる場所やお風呂など紹介をしているが、アモアがそういう機能を含めて、カフェなど飲食ができる状況になると、新しい顧客になると思う。北区の業者が運営するとはならないかもしれないが、地域への来場者は増えると思う。一方で、バーベキュー場への食材の運搬が土手を越える必要があり大変である。先ほどの議論の中でまちとかわの距離の話があったが、商店がまちとかわの間に少ないというところを解決できると地域の方も使用しやすいし、バーベキュー利用者も遠くから買い出しをせず、地域で買い物をしてもらうことができ、食材配達サービス等に頼る必要もなくなるかなと思う。

- (委員) いろいろな規制があって商売ができないなどはあるが、浮間公園にコマダ珈琲ができたのはいい例だと思う。規制が緩和されて人が入るようになればいいと思う。
- (委員) 浮間公園はチューリップや風車があるので、そのイメージにマッチした建物ということでコマダ珈琲になったと聞いている。また、ピクニックフェスタの時にマシュマロを火で焼くということをやっていたが、子どもたちに大好評であった。火は原則的に禁止されているが、火があって焼いて食べられるのは、親や子供にとって魅力的でよいと思った。
- (委員) 公園は規制が多い。浮間公園の話があったが、浮間公園は東京都の多目的事業で提案の中でコマダ珈琲に決まった。コマダ珈琲にとっても事業の収益が取れるということで建物を建て、事業が始まった。そのような形で許可をして、公園の中で施設を入れて運営しようというのが区ではPark-PFIという事業で、飛鳥山公園でレストランをやっている例がある。それをやるにしても事業者が入ってくるかが大事であり、入念に調査をして実現が可能であればできるということがある。ここでそういうことをやろうとすると河川敷は災害時の対応等がある中で、許可を出せるかを含めて、かわまちづくりの中で事業の見込みがあるかはサウンディング調査などの実現可能性の調査をしながらやっていくことになると思う。今日のご意見で、あったらいいよねというのは、まち歩きのワークシートに書いていただきたい。様々な規制がある中で、実施できたことというのは、指定管理者や区に許可を取りスポット的に実施されたものなので、継続してやれるかということは課題だととらえている。管理者としてなかなか規制の緩和に対しては守りに入ってしまいがちだが、ご意見としては参考にしたい。
- (副会長) 河川敷に滞留できる場所を作るのは大賛成である。あわせて考えた方がいいと思うことがある。今日は電車できたが、事前に道を教えてもらっていたので、駅を降りて横断歩道を渡って道に入ると志茂の旧道に入れたが、川が見えないのでどうやって荒川に行ったらいいかわからないのではないかと。

川敷へ案内するものは看板等サインを作ることも考えられるが、そういうものに頼らずに、駅を降りたときに旧道は道の舗装が違っていたり、ここを歩いていくと川につながっていく予感がするというようなことが大切と思う。河川に滞留スペースを作ったり、商売で成り立ったりする前提としては、駅から川へのアクセスを、どのように直観的に気持ちよくできるかというアプローチをわかりやすく伝えることを考えることが必要である。できれば途中で物を買って等があると河川敷までの距離も短く感じると思う。新河岸川の堤防が低くて次に荒川の堤防があるので、まち側から荒川の堤防に上ったらどんなに気持ちいい空間が広がっているかが分からない。荒川の堤防の向こうに広がっている活動のワクワク感をまち側へ見せられるかが、来街者からすると重要だと思う。また、河川敷はたくさんの人に使われているし、水門もあり、川の分合流があり面白いところで、のびやかな柔らかな空間のはずなのに、坂路（下に降りる道）に沿って白い柵がついており、そこを切り裂くような直線のものが入っているのが気になる。荒川ののびやかな風景に合うものに、ちょっとしたリニューアルができるような工夫ができるとよい。

○（会長）来街者には若い方もご年配の方もいるため、いろいろな手を使う必要がある。人がだんだんと集まってきた中で、次は様々な仕掛けができればと思う。議論にあたっては、幅広くアイデアを皆さんから出していただければと思う。

○（事務局）まち歩きのワークシートは、記入いただき提出をお願いしたい。

#### 次回の日程について

○次回の第2回協議会は7月11日（木）18時から開催とする。

以上